

1 チーム名 (研究対象領域・教科) 小学部 自立活動 2

2 メンバー 小学部教員 5名

3 チームのテーマ: 子どもが主体的に動ける授業づくり ～コミュニケーション手段の獲得～

4 対象児童に願う主体的な姿

A	・少ない支援の中で気持ちの切り替えができ、落ち着いて次の活動へ取り組める姿
B	・自分の気持ちを伝え、落ち着いて活動する姿
C	・自分の気持ちに折り合いをつけ、自分なりの方法でやりたいことを伝えようとする姿
D	・コミュニケーション手段を拡張、自分の思いを伝える姿

5 研究実践の内容

(1) 研究の経緯

本グループは教材・教具の作成や活用を通して、「子どもが主体的に動く」ことをねらいとし、円滑なコミュニケーション手段の獲得を目指して研究を進めた。本グループの各対象児はまだ発語が未熟であったり、やりとりが難しかったりするが、教材・教具の活用を通してどう支援していけばよりよい支援につながるか検討し、実践を展開した。

7月	現在の状況確認	各対象児の現況をビデオに撮り、実態を確認し合った。
10月	研究授業	指導案を基に授業を行い、ビデオ撮影・発表を実施。その後の教材作成や活用方法の改善につながるような視点で研究協議を行った。
11月	検証授業	前回の意見を基に授業を実践し、前回同様ビデオ撮影・発表を実施。教材の活用方法等、改善点や児童の変容について協議した。
11月～ 12月	研究のまとめ	各研究を基に本グループのテーマに基づいた共通項を確認し、グループのまとめをした。

(2) 研究の実際

【事例 I】

- ①対象児童に願う主体的な姿
- ・本時に行う学習内容の見通しをもって取り組むことができる。
  - ・自分で本時の目標を決めて取り組むことができる。
- ②教材・教具に関して
- ・普段から写真カードを使った、活動予定や場所の確認をしている。
  - ・場所の移動は写真カードを手がかりに動くことが多い。
  - ・自分でも写真カードを貼る作業が好き。
  - ・使い終わった道具を所定の場所に片付ける様子も見られるようになってきた。
- ③研究授業について

授業場面	個別の自立活動「べんきょう」の時間
授業のねらい	・本時に行う学習内容の見通しをもって取り組むことができる。 ・自分で本時の目標を決めて取り組むことができる。
手立て	・本時の取り組む内容を児童が決められるように、学習内容を示した写真カードを使用し、選択できるようにする。 ・選択した写真カードをボードに貼って、活動の見通しがもてるようにする。
対象児の様子	・やりたい活動を選択する。 ・活動の終わりが分かり、次の活動へ切り替えることができる。
教材・教具の工夫	・自分で操作しやすいように、カードに厚みを持たせた。 ・終わりのボックスを準備し、活動の終わりを意識できるようにした。

#### ④グループでの検討

撮ってきたビデオを見ながら、教材の活用等について確認し、課題を共有した。その後、改善点等を出し合い、検証授業につながるように話し合った。

- ・写真カードの活用に固執せず、本児が分かりやすい言葉を使ってのやりとりを行ってはどうか。
- ・課題学習を選択する際具体物と同時に写真カードを提示するなど、写真カードの活用方法を改善してはどうか。
- ・集中して課題学習に向かうことができるように、個別のスペースで学習を行ってはどうか。 等

#### ⑤検討後の改善点と児童の変容

☆ 個別の学習を行う場所を変更した。個別の場所を設定したことで、周りの刺激を受けずに課題に集中して取り組むことができるようになった。また、場所の移動の際、机を教師と一緒に運ぶことで、学習の始まりが意識でき、落ち着いて学習に入ることができるようになった。

☆ 落ち着いて教師とやりとりできることが多くなってきたことで、写真カードで自分のしたい活動を選ぶことができるようになってきた。

☆ 教材用の引き出しを作成し、対象児童が使用する教材をしまっておくようにした。課題に使う教材の準備・片付けを児童自身が行うことで、学習の始まりと終わりを意識して取り組むことができるようになった。

#### ⑥今後の課題

★ 児童の実態を考えながら、関心のある教材を増やしていき、より集中して課題に取り組めるようにしていく。

★ 語彙を増やし、自分の意思を言葉で伝えることができる場面を増やしていく。

★ 言葉のやりとりができる場面を意図的に設定し、繰り返し使っていく経験を増やしていく。

### 6 成果と課題

【成果】（協議を通して得られた意見を授業に生かし、実践した成果）

○ 写真カードの提示の仕方ややりとりの方法を統一したことで、よく写真カードを見て選択している様子が見られた。写真カードを選んで、自分のやりたい活動を伝えようとする姿が増えた。

○ 課題学習に本人の主体性が生かせる活動を取り入れたことで、自信を持って取り組むことができるようになった。

○ 2択で絵カードを提示し選択することを重ねたことで、どちらか一方を選ぶことができるようになってきた。

【テーマに関連して（コミュニケーション手段の獲得につながる手立てについての考察）】

○ 写真カードの提示の仕方や教師とのやりとりを統一して、児童が使える手段・方法を分かりやすくすることで、児童自身が自分の意思を表出しやすくなるのではないか。

○ 児童が意思を表出する際に分かりやすい環境設定をすることは、教師にとっても児童の意思を汲み取ることができる状況が増えるのではないか。

○ 新たなコミュニケーション手段を獲得させることよりも、現在みられる表出方法（例：発声）を有効に使うことが、子どもの主体性を伸ばすことになるのではないか。

○ 決まったサインでのやりとりを定着させることで、気持ちのコントロール力が高まり、それが望ましいかわり方につながるのではないか。

【まとめと課題】

教材を介してコミュニケーションを図る際、今ある教材を精選したり、活用の仕方を変えたりすることで、子どもが分かりやすい状況を整えることがまず大切であることを共通理解した。今後は、児童が自分の意思を表出した際の解釈の仕方や意思を表出しやすい教材の在り方が課題となる。

